

(別紙様式4)

平成26年10月8日現在

職業実践専門課程の基本情報について

学 校 名	設置認可年月日	校 長 名	所 在 地			
トライデントスポーツ医療看護専門学校	平成11年3月31日	増田 浩実	〒464-8611 愛知県名古屋市千種区今池1-5-31 (電話)052-735-1608			
設 置 者 名	設立認可年月日	代 表 者 名	所 在 地			
学校法人河合塾学園	昭和53年8月1日	河合 弘登	〒464-8611 愛知県名古屋市千種区今池1-5-31 (電話)052-735-1600			
目 的	確かな専門知識・技術を取得し、患者様に真摯に向き合うことができ、臨床現場で活躍できる理学療法士を養成する。					
分野	課程名	学科名	修業年限 (昼、夜別)	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	専門士の付与	高度専門士の付与
医療	医療専門課程	理学療法学科	4年(昼間)	3630単位時間 (又は単位)	—	平成22年 文部科学省告示第 157号
教育課程	講義	演習	実験	実習	実技	
	2370単位時間 (又は単位)	450単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	810単位時間 (又は単位)	単位時間 (又は単位)	
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
130人	89人	6人	31人	37人		
学期制度	■前期：4月1日～9月30日 ■後期：10月1日～3月31日			成績評価	■成績表 (有・無) ■成績評価の基準・方法について 期末試験、出席率、レポート点によって評価。 臨床実習の評価は、実習施設における評価を尊重し、A、B、C、Dの4段階評価をする。	
長期休み	■学年始め：4月1日 ■夏 季：7月24日～8月31日 ■冬 季：12月20日～1月5日 ■学 年 末：3月31日			卒業・進級条件	当年次に教育課程表に定める単位を全て修得することで進級可。全て単位を修得し、卒業判定会議で承認されることで卒業可。	

トライデントスポーツ医療看護専門学校
 医療専門課程 理学療法学科
 別紙様式 4 (学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

生徒指導	■クラス担任制 (有) 無 ■長期欠席者への指導等の対応 個別、あるいは保護者同席での面談	課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動 (有) 無
就職等の状況	■主な就職先、業界等 病院 ■就職率 100% ■卒業者に占める就職者の割合100%	主な資格・検定	理学療法士免許 介護予防運動指導員
中途退学の現状	■中途退学者 5名 ■中退率 6.3 % 平成25年4月1日在学者 79名 (平成 25年4月入学者を含む) 平成26年3月31日在学者 74名 (平成 26年3月卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更 ■中退防止のための取組 個別相談、あるいは保護者同席での面談		
ホームページ	URL: http://sports.trident.ac.jp/		

1. 教育課程の編成

(教育課程の編成における企業等との連携に関する基本方針)

教育課程編成委員会(以下、委員会)は、現在、病院で指導的立場におられる療法士、公益社団法人愛知県理学療法士会会長及び、トライデントスポーツ医療看護専門学校から校長、関係学科チーフ、学科長、教務主任、事務担当の7名で構成されている。また、オブザーバーとして随時、専任講師も出席している。医療を取り巻く環境は変化が激しく、国の施策等に大きく影響される。そこで臨床現場で何が起きているか。新たにどのような知識、技術が必要になっているのかを教示いただき、本校のカリキュラムに新たに加えるべき点、改変修正すべき点を指摘願ひ、授業科目、その内容や教授方法の改善を行うこと基本方針とする。

(教育課程編成委員会等の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

名 前	所 属
鳥山 喜之	公益社団法人 愛知県理学療法士会会長
岡田 壮市	医療法人珪山会 鶴飼病院 リハビリテーション部統括部長
増田 浩実	トライデントスポーツ医療看護専門学校 校長
中野 進	トライデントスポーツ医療看護専門学校 理学療法学科長
加藤 芳司	トライデントスポーツ医療看護専門学校 理学療法学科
服部 尚子	トライデントスポーツ医療看護専門学校 理学療法学科
石川 敏男	トライデントスポーツ医療看護専門学校 理学療法学科

(開催日時)

第1回 平成26年8月27日 15:10~16:00

第2回 平成26年9月16日 14:00~15:00

2. 主な実習・演習等

(実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針)

学生については、学内で習得した知識、技術をより確実なものとするため、施設による実習体験は非常に重要となる。臨床現場での実習を通じて、学内で学んできたこといかに応用・活用できるかを試行する。また患者様や医療スタッフとの関わりを通じてコミュニケーション能力を高める。

教務側としては、実習指導者側から本学に求められる改善点を聴取し、より充実した実習内容に努める。

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
臨床実習Ⅰ	医療現場でのリハビリテーションの流れを知り、患者様や医療スタッフへの接し方や理学療法士の治療場面を見学することで必要な資質を自覚させ、学業に対する動機づけを行う。	うめだ整形外科 トヨタ自動車株式会社 トヨタ記念病院 医療法人 杏園会 熱田リハビリテーション病院 医療法人 済衆館 済衆館病院 社会医療法人 杏嶺会 老人保健施設やすらぎ 総数 21
臨床実習Ⅱ	学内で指導した評価の過程を臨床場面で実施する。患者様の動作分析の考え方や具体的な検査測定技術を習得することを目標にする。運動器疾患、神経疾患を的確に評価できることを目標にする。	医療法人 知邑会 岩倉病院 医療法人 平針かとう整形外科 おおた整形外科クリニック 医療法人 しろみ会 城見整形外科クリニック

		医療法人 仁医会 西尾老人保健施設 総数 18
臨床実習Ⅲ	理学療法の知識・技術の応用能力を実際の臨床場面で学び、理学療法評価に基づく適切な治療プログラムの作成と、その実施が目標となります。また、評価や治療の記録を通して、部門・組織の一員として実務や業務管理を体験する。	カワムラ整形外科 社会医療法人 畿内会 岡波総合病院 医療法人 尾張温泉リハビリ かにえ病院 医療法人 優進会 いまむら整形外科 医療法人社団 福祉会 高須病院 総数 25

3. 教員の研修等

(教員の研修等の基本方針)

理学療法学科教員は、厚生労働省と(公財)医療研修推進財団との共催で行われる、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成施設等教員講習会(4週間)を受講するようにしているほか、毎年開催される全国リハビリテーション学校協会主催の教育研究大会及びワークショップへ1名以上参加させ、教育の質向上に取り組んでいる。また各教員が自らの専門性に合わせ、学会や研修会に参加し、終了後は研修レポートを提出させ、教員間で知識・技術・技能等の共有化を図っている。教員に対して毎年教育研究費を支給しており、教員の自己啓発に便宜を図っている。また、年2回、臨床実習指導者会議を実施して、臨床実習指導者と本校教員共同で臨床実習のあり方、学生への対応の仕方等の検討会を行っている。

4. 学校関係者評価

(学校関係者評価委員会の全委員の名簿)

平成26年4月1日現在

名 前	所 属
徳永 勝哉	有限会社 ガイアそうこ
榊原 哲	松浦薬業株式会社
小林 忠雄	公益社団法人 愛知県柔道整復師会こばやし接骨院
岡田 壮市	医療法人珪山会 鶴飼病院
東 裕子	医療法人 としわ会
志知 紀代乃	中日新聞社健康保険組合 中日病院
榊田 昌三	愛知県立明和高等学校
上田 章人	株式会社ストロウハット(ラ・グラッセ山王橋)

(学校関係者評価結果の公表方法)

http://sports.trident.ac.jp/college_guide/documents/index.html

5. 情報提供

(情報提供の方法)

URL: <http://sports.trident.ac.jp/>

授業科目等の概要										
(医療専門課程理学療法学科) 平成26年度										
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時数	単 位数	授業方法		
必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技
○			心理学Ⅰ	心のしくみ、感情のしくみ等の心理の基礎学習、医療従事者としてのコミュニケーション能力の養成とホスピタリティマインドについて理解する。	1前	30	2	○		
○			心理学Ⅱ	心理学とは何かを学び、適切な援助を効果的に行うために必要な心理学全般の基礎知識を習得する。心理学的な見方・考え方を身につけ、行動を科学的視点から理解することで、自己理解、他者理解を深めていく。	1後	30	2	○		
○			コンピュータ	文書作成のWord・表計算のExcel・プレゼンテーションのPowerPointの3つのアプリケーションソフトの基本的な操作を習得する。最終目標は、PowerPointを使ってのプレゼンテーション能力を高めることであり、実際に資料を作成し、発表会を実施する。	1前	30	2		○	
○			英語Ⅰ	基本構文を理解し、語彙力を高め、英字論文を「読む力」・外国人演者の発表内容を「聞く力」・質疑ができる「話す力」を習得する。	1通	60	4	○		
○			自然科学	「生理学」・「解剖学」につながる「生物」の基礎分野について学習し、高校時代に「生物」未履修であった学生の授業理解の一助とする。	1通	60	4	○		
○			物理学演習	「運動学」・「物理療法」・「薬理学」・「病理学」の理解を助けるため関連する「物理」・「化学」の分野・単元を学習する。	1通	60	4	○		
○			基礎解剖学	基本的な人体構造を理解し、運動系（骨格系、筋系）、神経系、脈管系、内臓学、感覚器系などの基礎知識を系統的に習得する。	1通	120	8	○		
○			機能解剖学Ⅰ	理学療法の評価・治療現場で不可欠となる、人体表面からの触診について学習する。	1通	60	4		○	

○		生理学 I	人体の正常機能を知る上で必要とされる一般基礎生理学を学習する。生体維持の基礎（細胞と組織、体液と電解質）、生命活動の基本（血液循環、呼吸、消化吸収、代謝、排泄、内分泌）を中心に学習する。2年次の専門科目を履修していく上での基礎となる神経系と運動機能に関する基本的な知識を習得する。	1 通	120	8	○		
○		解剖学演習	基礎解剖学で学ぶ骨格系の解剖学を理解し、さらに解剖見学実習に向けてグループ学習をおこない、解剖見学実習後にグループ発表を通して知識理解の確認をおこなう。	1 通	60	4	○		
○		生理学演習 I	生理学 I の進度に合わせて、理解が不十分だった内容に関して課題演習を行い、解答解説を通して復習をする。	1 通	60	4	○		
○		人間発達学	総合的に人間を理解する能力の基礎として、人間の各発達段階における特徴と特質を学習する。	1 前	30	2	○		
○		医学概論	「医学」というものを、歴史や現状をはじめとし、人体の構造、各種疾患の原因と症状、また理学療法士以外の医療職や現在の医療制度なども含めて理解できるようにする。	1 後	30	2	○		
○		英語 II (医学英語)	生理学的用語や臨床医学およびリハビリテーション医学において必要とされる用語を習得する。英語文献を理解できるレベルを目指す。	1 後	30	2	○		
○		リハビリテーション概論	リハビリテーションの基本理念や諸相、進め方を理解する。疾病・障害の概念と分類のほか、患者・障害者の心理・社会的側面などについても理解を深める。	1 前	30	2	○		
○		介護福祉概論	高齢者施設、障害者施設の現場に関する理解を深めるとともに、それらの現場における活動を支える諸制度、援助技術についての知識を獲得する。	1 前	30	2	○		
○		理学療法概論	理学療法や理学療法士についての理解を深める。理学療法の専門科目を学習するための準備段階として、理学療法の定義、歴史、倫理、ガイドライン、分野と現状などについて学習する。海外での理学療法の紹介や ICF による患者障害像の捉え方などを学習する。医療専門職として身につけるべき職業意識や倫理観の育成にもつなげる。また、理学療法の対象となる疾患および障害などについても学ぶ。	1 後	30	2	○		

○		理学療法評価法 I	理学療法における評価の概念と意義を解説する。具体的評価対象、各評価項目その評価方法(検査測定技術等)、記録方法を解説する。検査測定技術については主にバイタルサイン、形態測定、関節可動域テスト (ROM-T) を実施する。	1 後	30	2	○	
○		保健体育学	アスレティックトレーナー・スポーツ全般の基礎知識を学習する。競技特性や身体特性に応じたトレーニング理論・スポーツ傷害論について講義。スポーツトレーナーとして必要な傷害評価法・テーピング・マッサージ・ストレッチ・救急法の実技を習得を目指す。	2 通	60	4	○	
○		機能解剖学 II	1 年次の機能解剖学 I に引き続き、主に軟部組織 (筋や靭帯など) を中心とした触診技術を習得する。四肢体幹において体表からの確に触知できる技術を習得する。	2 通	120	8	○	
○		生理学 II	運動生理学、神経生理学、感覚生理学の 3 つの観点から身体生理学的機能を中心に学習する。また、病態生理学の知識を習得し、生命現象のしくみを体系的括総合的に把握する。特にリハビリテーションに関連する神経・筋肉系の修復機構の理解を深め、臨床現場における生理学的根拠の観点の育成につなげる。	2 通	60	4	○	
○		生理学演習 II	生理学 I、生理学 II の学習内容をもとに人体の生理機構を学生自身が被験者となり、教科書で示される生理的機序の実際を学ぶ。	2 通	60	4	○	
○		運動学 I	基礎的な運動学的知識として、人体の構造と運動機能について総合的に理解する。具体的には、姿勢や実際の動作における身体メカニズム・運動学的分析の観点を習得し、専門分野である理学療法技術論の基礎知識を養う。	2 前	60	4	○	
○		運動学 II	基礎的な運動学的知識として、人体の構造と運動機能について総合的に理解する。筋・骨格系、神経系、呼吸循環器系の機能と運動・動作の関連について学習する。具体的には、四肢・体幹の関節構造を理解し各関節における運動メカニズム、実際の動作における身体メカニズムや運動学的分析の観点を習得し、専門分野である理学療法技術論の基礎知識を養う。	2 後	60	4	○	

○		運動学演習	理学療法士技能の根幹科目である運動学の理解をさらに深めるために、基礎的学習ポイントの見直しと完全理解を目標とする。	2 通	60	4	○		
○		臨床運動学 I	解剖学、運動学、生理学を基に、正常運動動作と異常運動動作の相違を知る。その中でも神経学的からみた運動の発現、反射・反応や随意運動について履修する。中枢疾患の治療へ繋がる基礎を作る。	2 通	60	4	○		
○		病理学概論	病理学は、病気の成り立ちについて、最も基本的な学問である。すなわち、各病気において原因を明らかにし、その原因が生体にどのように作用し、どのように生体に反応するのかを診る。その結果どのような経過を経て病気が発症成立して、進行、終息していくのかを知る学問である。したがって医療の現場で治療に直結する学問であり、医療に携わる者の必須の学問である。	2 前	30	2	○		
○		内科学	内科に患者が訪れた時、医師がどのように対応し診断・治療を進めるのかを具体的に知ることによって医学知識の習得に努める。また日常しばしば遭遇する疾患の基礎知識を習得する。	2 通	60	4	○		
○		神経内科学	リハビリテーションに関連の深い神経内科の基礎的知識（神経学的診断、神経症候学）を学ぶ。個々の疾患を全身的疾患のかかわりの中で捉えることを理解し、神経内科の領域にて特にリハビリテーションにかかわる疾患の治療について、疾病の全身構造、神経筋の基本的理解を踏まえて学習する。	2 通	60	4	○		
○		一般臨床医学 I (小児科学)	小児期（胎生期～学童期）における特性を学ぶ。理学療法士に必要な小児疾患における発生機序、症候、特性、病態を理解し、傷害の発生要因を医学的見地から学習する。	2 前	30	2	○		
○		一般臨床医学 II (精神医学)	臨床に必要な精神医学の基本を学ぶ。講義資料に沿って精神学総論、各種精神疾患、治療方法について講義する。	2 後	30	2	○		
○		臨床心理学	「臨床心理学」は1年後期の「心理学」からの応用編であり、さらに自分を深めていくことを目的とする。全15回を通	2 前	30	2	○		

				じて自己理解・他者理解を中心に授業を行う。						
○			研究法入門	理学療法はもとより、自然科学全般から、人体に関連する現象を専門用語と科学的手法を学び明らかにしていく能力を身につける。	2 後	30	2	○		
○			理学療法評価法Ⅱ	神経学的検査についての評価技術を習得する。基礎医学知識(解剖学、生理学)と臨床症状の関連を整理し、各種検査、画像所見から障害の推論ができる能力を養う。なぜこの検査が必要で、何が診れるのか、検査をする意味や根拠を理解する。	2 通	60	4		○	
○			臨床実習Ⅰ	医療現場でのリハビリテーションの流れを知り、患者様や医療スタッフへの接し方や理学療法士の治療場面を見学することで必要な資質を自覚させ、学業に対する動機づけを行う。	2 後	45	1			○
○			臨床運動学Ⅱ	基礎運動学にて学んだ基礎知識を基に、身体運動のエネルギー代謝、酸素運搬系の知識を深める。運動生理学と運動処方について学び、専門分野である理学療法治療学(運動療法学)の知識を養う。	3 通	60	4	○		
○			運動学実習	各個人が被験者となり、生理機能、人体の基礎能力を実感し認識する。基礎的能力の計測に及ぼす諸条件の影響など理解する。運動学にて学習した基礎的な人体構造および運動の基礎知識について、実習を通し、運動生理学的観点を考慮しその関連性を理解する。運動を力学的に分析する手法を身につける。	3 後	30	1		○	
○			整形外科学	肉体の構造、運動等の理解を深める。整形外科治療学における疾患の概念、病態、診断、治療その対応を学ぶ。また、各論においては、重点的に、リハビリテーションに関連の深い疾患の、検査方法、臨床所見の診かた(検査所見、X-P読影所見等)、各種整形外科的治療方法(手術法等)について理解を深め、理学療法実践とそのリスク管理に必要な基礎知識を習得する。	3 通	60	4	○		

○		一般臨床医学Ⅲ (脳神経外科)	脳神経外科の診断、治療に必要な解剖、生理、検査を再確認し、実際の診療が各疾患に対してどのように行われているかを学ぶ。脳神経外科学全体をイメージできる様にする。最低限必要な知識範囲を国家試験問題レベルとし、講義中に国家試験過去問題を取り上げ、講義理解を認識する。	3 前	30	2	○		
○		薬理学	薬物と生体との相互作用によって起こる現象とその機序など、薬物治療における基本原理(概念)を理解する。理学療法士が対象とする疾患、身体症状に処方される薬物(特に分類、種類、疾患に対する効能、副作用、注意事項等)について学習する。	3 前	30	2	○		
○		研究論文集計学	医療、関連分野への探究心を培う。具体的には文献検索、論文の読み方を学び、要約の仕方を習得する。各種評価機器の操作理解し、運動生理、バイオメカニクスからの考察ができる様にする。質問紙票を用いた調査研究手法を習得する。	3 通	60	4	○		
○		理学療法評価法Ⅲ	整形外科検査、神経学的検査、高次脳機能検査、疼痛検査の技術を学ぶ。体系化された代表的な総合的評価法の理論技術を学習し、各症例に即した理学療法評価や臨床場面で求められる合理的な評価実施手順について学習する。	3 通	60	4	○		
○		運動療法学Ⅰ (骨関節機能)	運動器リハビリテーション対象疾患について理学療法を適切に行うために必要な基礎知識および技術を習得する。運動器障害の臨床症状を学びその理学療法を理解する。各運動器疾患の運動療法、物理療法、ADL 指導に関する系統的な理学療法プログラムと実施留意点について学ぶ。	3 通	60	4	○		
○		運動療法学Ⅱ (脳神経機能)	脳血管疾患等リハビリテーション対象疾患について学習する。神経筋疾患の発生原因、病態、治療法、障害像などを理解したうえで各理学療法を理解する。各神経筋疾患の運動療法、物理療法、ADL 指導に関する系統的な PT プログラムと実施留意点について学ぶ。	3 通	60	4	○		

○		運動療法学Ⅲ (内部機能)	内部障害に対する理学療法を実施するために必要な基礎知識、内部障害の定義、障害の評価法、理学療法の目的方法、リスク管理など理解する。チーム医療における他職種連携や患者教育、社会的支援など隣接領域についても学ぶ。理学療法技術論として理学療法評価、身体診察の基本手技、運動負荷に対する呼吸循環応答の特徴、モニタリング法、理学療法の実際(呼吸理学療法)、人工呼吸器などについて学ぶ。	3 後	30	2	○		
○		運動療法学Ⅳ (発達機能)	発達障害系運動療法について学習する。正常運動発達の理論と発達過程における基礎知識を学習する。	3 前	30	2	○		
○		臨床理学療法	臨床における理学療法の流れ(疾患理解、評価項目列挙、問題点把握、治療プログラム立案等)について、与えられた課題症例に対して取り組む。	3 後	30	2	○		
○		疼痛学	生理的な痛みと病態痛との機序の違いを理解し、また自律系・運動系・情動系との関連から、痛みが全身へもたらす影響を神経生理学的に理解する。痛みの評価・マネジメントでは、生理学的・心理学的・社会的側面から捉える思考過程を構築する。さらに、最近の痛み研究成果を踏まえて、現時点での痛みの病態生理を学習し、臨床応用へつなげる。	3 前	30	2	○		
○		義肢装具学	義肢装具が障害を最小限に抑え、できるだけ正常に近い日常生活を営むために有効なりハビリテーション分野の一翼であることを理解する。義肢装具の定義、目的、原理、制度、種類、構造、機能等理学療法士に関わる知識を習得する。臨床において装具療法としての側面についても学習する。	3 通	60	4	○		
○		スポーツ理学療法	スポーツ選手や運動施行者に対する理学療法の意義・役割を理解する。スポーツ外傷・障害のメカニズムとその予防、理学療法評価と機能診断、アスレチックリハビリテーションと理学療法、理学療法プログラムの実際およびスポーツと健康保持に関して、理学療法士が担う分野について理論と実際について習得する。特にパフォーマンスレベルを上げるために行われるコンディショニング論に関して、現場に即したさまざまな知識の理論と実技を習得する。	3 前	60	4	○		

○		日常生活活動学	基本的な日常生活動作 (ADL) の概念、範囲、各動作の構成要因等について学習する。基本的動作の分析、ADL の一般的な評価方法について学習する。理学療法士が対象とする各疾患の病態と障害像を理解し、各疾患における障害特性に適したADL 指導および介助方法の技術を習得する。また ADL を援助する機器とその選択についても学ぶ。	3 通	60	4	○		
○		地域理学療法	地域理学療法の歴史。関連機関との地域連携、社会資源を総合的に理解し、老人保健施設・デイサービス・デイケア。地域支援事業・訪問看護・訪問リハ等について理解する。在宅生活支援の基本姿勢および生活環境論について学び、地域での理学療法士の活動について理解を深める。	3 通	60	4	○		
○		介護予防学	現代社会と医療が抱える課題の中で、リハビリテーションにかかわりの深い介護についての基礎知識を習得し、さらに理学療法士がかかわる介護予防に分野に必要な知識 (食事指導、栄養管理を含む)、技術について学習する。	3 前	30	2	○		
○		臨床実習Ⅱ (評価実習)	学内で指導した評価の過程を臨床場面で実施する。患者様の動作分析の考え方や具体的な検査測定技術を習得することを目標にする。運動器疾患、神経疾患を的確に評価できることを目標にする。	3 後	135	3			○
○		予防医学	理学療法士が臨床場面で接する機会が増加している高齢者について、老年期に見られる特性を理解するため老化のメカニズム、生理的・心理的特性、老年期に抱える課題についてなど、総合的に学習する。また、老化に伴い特徴的に出現するさまざまな病態や障害、その評価について学び、健康維持、障害予防など高齢者を取り巻く課題に対し理学療法士が果たす役割及びその意義について理解する。	4 前	30	2	○		

○		スポーツ医学	スポーツにおける生活環境に向けての医学的基礎知識を習得する。スポーツ医学を基礎としバイオメカニクスを背景として、スポーツ外傷障害のメカニズムとその予防について学習する。運動生理およびスポーツ障害学の観点から発生メカニズムに基づいたスポーツ外傷障害に対する治療方法やアスレチックリハビリテーションのコンディショニング方法等について総合的に理解する。	4 前	30	2	○		
○		物理療法学	理学療法における物理療法の位置づけを理解する。温熱等物理的な刺激が生体に与える影響を理解する。物理療法の種類と、各々の使用法及び治療効果について理解する。	4 前	30	2	○		
○		理学療法セミナーⅠ	運動療法学Ⅰで学んだ内容を踏まえ系統別理学療法の知識技術を一貫して習得し臨床的体系を理解する。特に臨床現場に即した理学療法の実際について学習する。	4 前	30	2	○		
○		理学療法セミナーⅡ	運動療法学Ⅱで学んだ内容を踏まえ系統別理学療法の知識技術を一貫して習得し臨床的体系を理解する。特に臨床現場に即した理学療法の実際について学習する。	4 前	30	2	○		
○		理学療法セミナーⅢ	運動療法学Ⅲで学んだ内容を踏まえ系統別理学療法の知識技術を一貫して習得し臨床的体系を理解する。特に臨床現場に即した理学療法の実際について学習する。	4 後	30	2	○		
○		理学療法セミナーⅣ	運動療法学Ⅳで学んだ内容を踏まえ系統別理学療法の知識技術を一貫して習得し臨床的体系を理解する。特に臨床現場に即した理学療法の実際について学習する。	4 後	30	2	○		
○		臨床実習Ⅲ	理学療法の知識・技術の応用能力を実際の臨床場面で学び、理学療法評価に基づく適切な治療プログラムの作成と、その実施が目標となります。また、評価や治療の記録を通して、部門・組織の一員として実務や業務管理を体験する。	4 通	630	14			○
合計				63 科目	3630 単位時間 (205 単位)				